

## 「災いを、鎮めるためには」

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



平安宮内裏承明門の鎮祭遺構の輪宝と皿・壺



鳥羽離宮金剛心院の鎮祭遺構の壺

安倍晴明、活躍す 「今は昔、藤原道長さまが法成寺を建立された時のことでございます。毎日御堂においでになるのに、白い犬をお連れになっていたのですが、ある日、門を入ろうとすると、犬が衣の裾を引いて引きとどめるではありませんか。不思議に思った道長さまは、陰陽師の安倍晴明さんをお呼んで占わせました。そして、地面を五尺ほど掘ったところ、占い通りに呪詛された二枚合わせの土器が出てまいりました。道長さまに恨みを持つ者の仕業であったようです。晴明さんの呪力が道長さまの危機を救ったお話です」

この説話は『宇治拾遺物語』に出てきます。このような容器や供

物などを穴に埋める行ないは「鎮祭」を埋納する「まじない」で、「鎮祭」と呼ばれていました。当時は疫病や自然災害などの災いが頻繁に起こっており、悩みを鎮めるために行なわれた「まじない」の一つが「鎮祭」なのです。また一方で、このような「まじない」は、藤原道長の例にみるように、人を呪うためにも使われていました。

「鎮祭」の作法 「鎮祭」の作法は、まず、銭貨・金箔・玉・色石などの供物を入れた、皿・碗や壺などの容器を用意します。その後、地面に穴を掘り、それらを埋め、近くで祈願の儀式を行ないます。穴の中には、土器・銭貨・鉄製の鋤先や鍬・密教法具の輪宝や

檝・丸い石などを一緒に埋める場合もあります。さらに穀物などの食物・酒・薬・幣帛・紙製や布製の飾り物など土の中では残らない品々も供えられたと想像できます。実際に、籾殻の痕がびっしりと付いた鉄製の鋤先が出土した例があります。



鎮祭に使われた鉄製の鋤先と鍬



土師器皿 2 枚を合わせ口にする



磨いた白石 25 個が入った須恵器瓶子



土師器甕に銭貨 3 枚を入れる

### 平安京右京二条二坊五町でみつかった鎮祭遺構

#### 「鎮祭」はどこで行なわれたか

鎮祭は、都の中心である内裏の広場や役所の周辺、京内の寺院や道路の路面などでも行なわれていたようですが、そんなに例は多くありません。これに対して、むしろ宅地（屋敷）で多く行なわれており、宅地内の空閑地、建物や区画溝の周辺、周囲の築地塀付近などが目立っています。

平安京右京二条二坊五町南東部の調査では、平安時代前期の建物の南側で赤石 12 個、西側では白石 25 個を納めた瓶子が穴に埋められていました。平安時代末から鎌倉時代の仏教書である『<sup>かくぜんしやう</sup>覚禪抄』の地鎮・鎮壇の条には、「本地四方可埋五色玉五穀粥」とあり、建物の四方に穴を掘り、玉と粥を入れたとあります。玉の色は「東 青玉廿四顆<sup>瑠璃</sup> 南 赤玉廿一顆<sup>琥珀</sup> 西 白玉廿七顆<sup>白石英</sup> 北 黒玉十二顆<sup>慈石英</sup> 中 黄玉廿顆<sup>黄石英</sup>」と記載されています。他の書物では、玉は石でも代用できるとあります。これらの記事は、発見した例とほぼ一致していました。

また、平安時代後期の鳥羽殿金

剛心院の調査では、西側の築地を造る際に穴を掘って壺が埋められていました。壺の中身は不明ですが、供物が納められていたことは間違いないでしょう。鎌倉時代後期の陰陽道次第書である『<sup>ぶんかんしやう</sup>文肝抄』地鎮条に、「大鎮 精進 撫无 八座 号地鎮」、「東麦 南黍 西粟 北大豆 中央米」、「青赤白黒玉各一 黄四 箭十二候祭之、後青玉并幣供物埋 卯方」とあります。また、「東方築垣犬走之外掘穴埋之深可掘之」ともあり、築地の外側に穴を掘って埋めたことがわかります。この記載は、金剛心院の例によく似た「鎮祭」の方法を伝えています。

「鎮祭」の特徴 「鎮祭」は、藤原京から始まり、平城京・長岡京でも見られ、平安京でも続いて行なわれました。古代の祭祀には、公共の場所で行なう公的な祭祀と、宅地内で個人や家族単位で行なう私的な祭祀とがあります。公的な祭祀は平安時代には少なくなりますが、一方で私的な祭祀は、特に平安時代中期頃から盛んに行なわれるようになります。

公的な「鎮祭」は、仏教（密教）

などの教えによると考えられます。一方、宅地内で行なわれた「鎮祭」は、神祇や陰陽道によるものと考えられ、家の安泰を願う「まじない」であり、そのため安倍晴明のような陰陽師が盛んに活躍することになったわけです。

このような移り変わりは、その頃になると宅地が実質的に個人の所有物になることが進んだり、個人の安泰・往生を願う浄土教が盛んになるなど、都に暮らす人々の意識の変化を反映していることに違いありません。

昔と今の「まじない」 さて、建物を建てる際に行なわれる地鎮祭は皆さまもご存じでしょう。今どきの地鎮祭では物を埋めることはありませんが、土地を鎮め、工事の無事を祈り、建物に災いを寄せ付けないように防ぐという点では、昔の「鎮祭」と同じなのです。

平安京で行なわれていた「鎮祭」が、形を変えながら今でも続いているわけで、願いをかなえるために「おまじない」をするのは、今も昔も変わらないようです。

（上村和直）